

新時代の学びを支えるICT活用推進事業（一部新規）

現状・課題

- 1人1台端末及び校内通信ネットワーク環境の整備が完了（小・中・高）し、授業活用がスタート → 教師のICT活用指導力の向上
- ▲ ICT活用の指導できる教員は2割が指導に不安 教員5人に1人がICTを苦手<文科省調査R5> → ICT支援員によるサポート体制の拡充
- ▲ 授業におけるICT活用のアドバイスをしてほしい（事例やアプリ紹介） <県独自調査：授業を担当している教員への調査（R5）> 8割の教員が希望

◎ 1人1台端末の教育活動が展開され、子どもの学びを保障するための「運用面の支援体制」の更なる強化が求められている。文科省（R3）

- ・教員のICT活用指導力 R3:75.7% → R4:80.3% → R5:82.3%（R6年度末目標100%）
- ・ICT支援員等が週に1回以上学校を訪問する市町村数 → 5市（R6年度末目標18市町村）

ICT活用指導力を向上に向けた取組内容

1. ICT教育サポーター育成プラットフォーム（拡充）

高いICTスキルと学校現場に精通した人材を育成・確保し派遣する

- ・県立高校48校へICT教育サポーターを週1回程度派遣
- ・私立学校、市町村立学校等への派遣
- ・市町村教育委員会、ICT支援員とプラットフォームの連携

【支援内容】

- ・授業におけるICT活用のアドバイス（事例やアプリの紹介等）
- ・ICT機器やアプリ等の活用に関する校内研修 など



2. ICT活用優良授業チャレンジ（継続・拡充）

ICTを効果的に活用した授業実践の公開

教員用ポータルサイトの更新

<委託業務内容>

- (1)ポータルサイト企画・構築
- (2)サイトの保守運営業務
 - ①収集事例を公開するサイトの運営、更新
 - ②収集事例の整理
- (3)本ポータルサイトを活用した実践事例の紹介



授業力の向上

業務改善・働き方改革の推進 ・ 学びの場のICT推進

3. 県立高校の採点補助システムの高度活用（継続・拡充）

- ・百問繚乱（採点補助システムの継続利用：2年目）
- 入試業務の効率化を図るシステム活用
- 対象：22高校施設
- タブレット端末を活用した答案返却の電子化

4. 大分教育ネットワークの更改（新規）

- ・児童生徒が学習用端末を安全かつ安定したネットワークで利用できるネットワーク環境の構築
- 集約型ネットワークの増強からローカルブレイクアウト（一部）へ移行



5. その他 ICT関連機器の着実な更新（継続）

- ・学校のWi-Fi環境の充実
普通教室のAP更新、多目的教室及び体育館、農場等への新規設置
- ・1人1台端末の維持管理
浸水、落下等による端末故障時の修繕料
- ・電子黒板の機器更新
電子黒板（39教室）等の教室ICT機器の更新
- ・1人1台端末の次期更新の支援拡充
令和元年度に導入したタブレット端末（1,655台）の更新

